

1 2 番 おはようございます。通告1番、12番議員、清水豊司です。

私は、人口減少の中、当町の「新たな6事業」と「あしがら地域広域ビジョン」について、伺います。

国、県、市町村においてこれからの政策立案、実施の最も重要なファクターは、人口減少であります。その人口減少において、総務省はことしの7月11日に人口動態調査を発表した。それによると住民基本台帳に基づく、ことし1月1日現在の人口は前年より37万4,055人少ない、1億2,520万9,603人、対前年0.3%減であった。

人口減は9年連続で、減少幅は1968年調査開始した以降、最大となった。この1年間で減った37万人強の数字は、中核都市が一つ消えたのと同じ規模である。しかも、問題は毎年減少のテンポが速まっていることである。人口減少に立ち向かうには、確かな長期ビジョンに裏づけられた政治家のリーダーシップが不可欠だ。安倍首相が2015年に打ち出した目標は、50年後も1億人を維持する。そして希望出生率は1.8を挙げた。今後、出生率が向上しても現役世代の女性の数は減り続けるため、産まれてくる子どもの数は増えない。現在の人口を維持するためには、出生率2.08以上が必要だが昨年の出生率は1.48にとどまっている。50年後の2065年ごろの日本の人口は1億人どころか、8,000万人まで落ち込むと予想されている。人口減少は、地方自治の将来をも大きく変えていく。当然のように思われていた公的機能やサービスを多くの市町村が単独では担え切れなくなり、自治体は役割の再定義を迫られている中、市町村がフルスロットルで公的機能を備える発想に限界がある以上、これまでの都道府縣市町村の固定的な役割を見直せざるを得ない時代に入ってきている。

このような人口減少は、足柄地域、また当町においても同じで、当町は2030年の人口を1万5,987人と推定されています。人口減少に向き合うことは痛みを伴うが、前回の定例会で同僚議員の質問に答えて、町長は前向きに本町のまちづくりの成果を次世代に確実につなぐとともに町の発展と持続可能な行政サービスを展開するため、新たに取り組む6項目を挙げられました。

その事業は、一つ目、町の新たな顔となる中心市街地の形成。

二つ目、地域新電力の設立とスマートタウン構想の推進。

三つ目、公共施設の機能集約化と統廃合の検討。

四つ目、幼保一元化の推進。

五つ目、道路網整備と地域交通対策の推進。

六つ目、パークゴルフ場の整備。

一方で、5町の人口減少の中、5町の副町長で構成される「あしがら地域創生推進連絡協議会」が「あしがら地域広域ビジョン」を本年3月に作成されました。このあしがら地域広域ビジョンは、足柄地域における地域づくりの指針であり、今後足柄地域の各町は町政運営の最上位の計画であり、総合計画の策定時また改定時に本ビジョンの実現に向けて、施策の具体化に努めるとされています。

人口減少の中、上郡5町を一帯エリアとした広域行政のビジョンができたことはすばらしいことであります。そこで以下の3項目について、質問いたします。

1、当町が新たに取り組む事業の必要性は理解いたしますが、実現に向けた課題と対応は。

2、「あしがら地域広域ビジョン」の実現に向けての課題と対応は。

1項、2項推進するには経験に裏づけられた強いリーダーが必要と考える。12月に任期満了を迎える町長の進退は。

以上、1回目の質問とさせていただきます。

議
町

長
長

答弁願います。町長。

通告1番、清水豊司議員の人口減少の社会の中でというようなことで、御質問でございますが、人口減少社会というのは大変我々地域にとっても、国にとっても大きな課題であるわけでございますが、最近のうちの息子たちに聞いても「産めよ、子どもをと言うけど、これからの子どもは大きな負担がかかってくるというようなことで、かえってかわいそうではなかろうかな」というようなことを申しておりました。

そういう点から考えますと、やはりもう少し社会保障制度を変えていく必要があるんじゃないでしょうか。特に年金制度なんかも見直していかなければ、少ない人数で多くの高齢者を支えていく。そんなことが課題で、そういうことはかえって次の子どもたちに大きな負担をかけるんじゃないかと。そんなことを若い人たちは危惧してるような状況になってしまったわけでございます。

そんな中で、結論から申し上げさせていただきますが、私がヘルシータウン大井を掲げまして、平成10年12月22日に町長に就任して以来、20年が経過しようとしております。この間、町民の皆様初め、議会議員の皆様方の温かい御支援、御協力、また御提言などをいただき、町政の推進ができましたことをこの場をかりまして感謝を申し上げる次第でございます。

就任当初はバブル経済破綻後の不透明な経済状況のもとで、町の状況を鑑み、財政能力に応じた施策の推進に努めてまいったものでござい

す。そういう点では、町民の皆様方に大変窮屈な思いをさせたんじゃないかなと考えておるところでございます。21世紀を迎え、経済構造の変革、少子高齢化の急速な進行、地球規模での環境問題、情報・通信技術の進展など、あらゆる分野において転換期を迎えるというものでございます。

さらに、大手法人の移転・再編をはじめ、人口減少、少子高齢化の進行、社会経済状況の変化や町民ニーズの多様化など、本町を取り巻く環境も大きく変化してまいりました。そのような時代の変化に的確に対応するため、総合計画により、時代にふさわしいまちづくりを推進するとともに、平成23年度には、大井町第5次総合計画「おおいきらめきプラン」を策定いたし、本町の未来に向けまちづくりを進めてまいりました。総合計画の成長戦略に位置づける「教育・保育環境の充実」、「産業立地と居住環境の創出」、「相和地域の活性化」また「次世代産業の共創と連携」に係る施策は、まさに本町の未来に向けたまちづくりの礎となる取り組みであると考えております。

このような背景をもとに、本年の6月議会において、本町における「まちづくり」の成果を次世代に確実につなげるとともに、町の発展と持続可能な行財政サービスを展開するため、今後、新たにに取り組むべき事業として、6事業を提言させていただきました。

一つ目は町の新たな顔となる中心市街地の形成でございますが、現在推進しておるところの大井中央土地区画整理事業を確実に移住・定住に結びつけ、人口増加とにぎわいの創出につなげるものでございます。子育て支援策や高齢者対策、防災・防犯対策、エネルギー対策、都市計画道路の整備や公共交通対策等について、政策間での連携による新たな町民サービスの構築を図り、本事業において整備される住宅地や公園、行政サービス機能・福利厚生機能などが集積される大井町役場周辺を、住んでみたいと思われる町の新たな顔となる中心市街地として形成させるため、今までの枠に捉われない斬新な取り組みが必要となっていくと考えるところでございます。

二つ目の地域新電力の設立とスマートタウン構想についてでございますが、再生可能エネルギーの有効利用の促進に向けた取り組みの成果を、次の新しいステージにつなげるため、町内に地域新電力を設立しようとするものでございます。

次世代のまちづくりとして、地域新電力の設立により、経済地域内循環を創出するとともに、地域課題の解決に向けたソーシャルビジネスを展開するため、仕組みを構築し、エネルギーの有効活用から大井町版ス

スマートタウン構築を図り、新しい手法により持続可能なまちづくりを創出しようとするものでございます。

地域新電力の設立に当たっては、町民の皆様の協力が必要不可欠になるため、事業者、町民、行政が一体となり検討を進める組織を編成する必要があるという認識で検討しておるところでございます。

昨日もドイツのヘッセン州の経済エネルギー担当者とヘッセン州にあるアルハイム町の5,000人ぐらいの町でございますが、その町長さんがお見えになっていわゆる持続可能な社会づくり、地域づくり、またあわせてこのスマートタウンといいですか、いわゆる再生可能エネルギーを活用した中での経済振興、またまちづくりについてお話を聞き、また大井町で進めている環境の取り組みも含めて御説明させていただいたものでございます。これはやはり特にヨーロッパはこういう事業が進んでおりまして、その地域電力で設けた財源でいわゆる行政の利益を生まないところの行政を進めていく。そんな手法を捉えていると昨日聞いたものでございます。これらは我々としても進めていく必要があるというような認識を持っておるところでございます。

三つ目の公共施設の機能集約化と統廃合の検討についてでございますが、本町においても、現在、平成29年度は人口がいわゆる下げどまりになったと。微増があったわけでございますし、8月の人口統計を昨日も目を通したものでございますが、19人ほどの増になっているというようなことで、人口が増えている状況とは言えませんが、下げどまりつつあるのかなとそんなような受け取り方をしているわけでございますが、将来において特に2040年問題については、国のほうで示されたものは当町においては、20%ぐらいの人口減になるんじゃないだろうかというような数字をこの間総務省から頂戴したものでございます。

人口の減少による税収の減少や老年人口の増加による社会保障関係費の増加が見込まれる中、公共施設の老朽化に伴いまして、今後ますます施設の維持管理や改修に係る経費が増大することが想定されるものでございます。平成28年度に「大井町公共施設等総合管理計画」を策定したところでございますが、公共施設の機能集約化と統廃合の検討を早期に進め、各施設の個別計画を策定する必要があるとそんな認識を持って考えております。

四つ目の幼保一元化の推進についてでございますが、現在、多様な保育需要に対応するため、保育体制を充実させる取り組みを進めております。しかし、少子高齢化に少しでも歯どめをかけるためにも、さらに子育て支援策の充実を図るとともに、子育て世代の保育ニーズに対応した

施策を推進するため、幼保一元化の検討が必要であると考えておるところでございます。

幼保一元化の実現に向けては、既存施設の活用や施設の統廃合についても、将来を見据えた中で検討していく必要があるというようなことでございまして、これも大変給食センターの問題まで含めて、幅広い視野で検討していく必要があるというような考えでございます。

五つ目の道路網整備と地域交通対策についてでございますが、篠窪バイパスの完成とあわせ、都市計画道路「金子・開成・和田河原線」については、都市計画変更決定がなされ、事業認可も取得し、いよいよ整備に向けて事業が動き出すことになったものでございます。

そのような中、篠窪バイパスと都市計画道路「金子・開成・和田河原線」を結ぶ町道4号線・5号線については、南足柄市、開成町、大井町、秦野市、さらには小田原市を結ぶ幹線道路として機能し、今後交通量が増加することが見込まれます。歩行者等の安全対策や広域的な道路網の整備の観点から、県道昇格について、県と協議を進めるとともに、相和地区における集落間道路の整備を推進する必要があると考えております。

これにつきましては、先般も金子・開成・和田河原線の促進協で県に要望活動しましたところ、担当の浅羽副知事からもビオトピアの玄関口に町道5号になるわけございまして、その辺も県も御理解はしていただいてるところでございますが、関係市町で手を携えて運動展開を図っていく必要があると。

また、新たな中心市街地の形成や公共施設の機能集約化の検討もあわせ、人口減少及び少子高齢化の進行により、今後増大することが見込まれます交通弱者に対し、公共交通の確保等についても検討していく必要があると考えてございます。

地域交通の確保にあたっては、町民や行政、さらには公共交通事業者との連携により、今年度新たに地域公共交通会議を設置し、課題解決に向け取り組みを始めるものでございます。

六つ目のパークゴルフ場の整備についてですが、高齢者の地域参加による健康寿命の延伸を図る観点から整備を推進しようとするものでございますが、整備に当たっては、近隣市町の施設との差別化を図り、町の地域資源である観光施設等との連携により、複合的な機能を有する施設として整備することができるかが課題点であると考えておるところでございます。

今年4月にオープンしたビオトピアや町内唯一の宿泊施設「いこいの村あしがら」との連携なども重要な要素であり、相乗効果により地域活

性化につなげていくことが必要であると考えております。

二点目の「あしがら地域広域ビジョン」の実現に向けた対応についてでございますが、「あしがら地域広域ビジョン」は、中井町、大井町、松田町、山北町及び開成町を構成団体とする「あしがら地域創生連携推進会議」において、広域連携による政策的な発展や事務の効率化を図ることを目的とし、広域的な課題の解決に向けた取り組み、あしがら地域の活性化に向け連携して取り組む事業について協議を行い、広域連携の実効性を高めるために、あしがら地域における地域づくりの指針として策定したものでございます。

人口減少、少子高齢化の進行は足柄地域においても同様の課題であり、生産年齢人口の減少による税収の減少や老年人口の増加による社会保障関係費の増加など、自治体経営を取り巻く環境は厳しさを増しておるところでございます。先ほど答弁させていただきました本町の新たな取り組みとあわせ、広域連携による課題解決に向けた取り組みも、持続可能な住民サービスを確保していく上で、必要不可欠な要素となっていくものと考えております。

今後は、この指針をもとに、あしがら地域における広域連携の具体的な取り組みについて検討を進めることになりましたが、これまで培ってきた足柄上1市5町の枠組みを尊重し、南足柄市も含めた中で広域連携事業について、検討を進めていくことが重要であると考え、新たな1市5町の組織づくりをしようとするところでございます。

三つ目の12月に任期を迎える私の進退とのことでございますが、先にも述べさせていただきましたが、5期20年を振り返りますと、財政的には潤沢ではありませんでしたが、町のため、町民のため「公正無私」を信条に、ヘルシータウン大井の実現のために取り組んできたものでございます。町民の皆さん方の健康の水準がいいというのは、国保においても大きく高齢者においても、介護保険においても如実にあらわれているものでございます。

町の財政についても、後日報告しますが、財政健全化の指標においても、この地域では格別でございますし、また県からも全国的に見ても自治体としてはいい位置にあるというようなことでございます。これは多くの町民の皆様、議会の皆様の御協力をいただきながら、町政の推進ができましたことを大変感謝しておるところでございます。ここでもってお礼を申し上げるところでございます。その全てが完璧な成果をもたらしたとは決して思っておりませんが、町民の皆さん方にも窮屈な部分を理解していただいた中で、一定の成果が得られて、本町の未来に向けて

まちづくりの礎を築くことができたのではなかろうかなと思います。

また、広域行政にしても、また県からのいろんな後期高齢者の医療保険に関しても、それなりのことができたんじゃないかなと思いますし、町村会のシステム組合の設立もさせていただいたというようなことで、大変振り返ってみれば、有意義な事業を展開することができたとそのことを関係部署の皆さん方に感謝をするような気持ちでいっぱいでございます。

ここで大きな私たち長としては、やはり舵取りに誤ってはならないということが一番でございまして、それには気力と体力が必要であるというような私自身考えを持っておるところでございまして、ここで一区切りをつけまして、大きな時代の変化に対応した次のステージに向けた町政を新たな方に後進に託すことが望ましいんじゃないかなというように決断し、過日、講演会総会にお諮りいただいて、御理解をいただいたというような心意気でございます。

本町の発展のために先人たちが歩んでこられた思いを引き継ぎ、夢おい未来に向け、大井町を町民の皆様とともに新たな飛躍へと次の方には導いて行っていただきたい。そう願っておるところでございます。

私におきましては、残された任期、最後まで自分の持てる力を十分に発揮し、課題に対して誠実に取り組んでいこうと思いますし、さらに大井町がまたこの1市5町、また2市8町がいろんなことで連携できるためにも、最後まで力いっぱい取り組んでまいり、その後はいい地域づくりができるように努力していくことがまた20年やらさせていただいた私に課せられたことじゃなかろうかなとそんな思いでございます。大変お世話になりましたことを心からお礼と感謝を申し上げ、答弁とさせていただきます。

1 2 番 それでは、再質問いたします。

質問の順番を入れかえて3項目から再質問いたします。私は今3個目の答弁を聞いて思い出すことがございます。それは、平成20年に大手法人本社が大井町を撤退することを聞かされ、全協か臨時全協か忘れましたが、町長が発せられた言葉を町長覚えてますか。その言葉は青天の霹靂です。町長の進退について報道されているが、改めて本人の口から町政のかじ取りを後進に託すという言葉聞いて、私も青天の霹靂の思いで非常に残念に思っております。なぜなら、ことしの6月の定例会で同僚議員から12月21日任期満了を迎えるに当たって決意はという質問に、町長は明言せずにこのように答弁されております。「私もなった以上、無責任に課題を放り出してやめるということはできない立場にあるわけで

ございまして、繰り返しになるわけですが、現在取り組んでおる第5次総合計画で上げた事業を進行中で、取り組まなければならない中長期課題もありますし、これからの課題解決に町民の皆様の御理解と御支援をいただくとともに、職員とともに汗と知恵を出し、施策の実現に向けて邁進することが私に課せられたことじゃなかろうかと思えます。」さらに続けて、「町民の幸せのために、大井町の将来のために、町民の要望に応え、町民の持てる力を発揮して課題に対して誠実に取り組んでまいることが私の責務ではないかというように考えております。これからも議会の皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。」と答えられている。この答弁の中にある課題や事業というのは2カ月や3カ月で済む問題ではないわけです。少なくとも数年はかかる課題だと私は理解しておりますので、これからも町長として頑張ってくださるのだと理解しておりました。今、この町政の舵取りを後進に託すと答弁は3カ月前とかわっていると思うが、町長の心の中に何か変化があったんですか。

町長 私も去年の暮れごろから1年先はどうしようかというようなことを自問自答しておりました。後援会の幹部の者に暮れに相談する機会があったわけですが、私自身がやめたいという思いが強かったのでございますが、周りは続投せよというようなことでございました。そういうふうなことがだんだんある意味で高まってくる。私はここで70にもなるし、70過ぎてまた任期4年の中、健康を害しては町政の運営に多大な問題を発生させてしまうというようなことから、元気なうちに後進に道を開くことがいいんじゃないかなろうなと思ったわけですが、なかなか後援会との御理解いただけない、また後援会長もお休みにいられていたというようなことでございまして、また議会できちっと勇退する決意を発表するんであれば、やはり後援会総会なりをして後援者の理解をいただかねばなりませんので、9月にさせていただいたというようなことで理解賜りたいというように考えています。

以上でございます。

1 2 番 それでは、これからの質問は町長がおやめになるということを前提に質問させていただきます。

まず、1項目の町の新たな事業の課題と対応についてというような説明を受けた。そこで、町長がやめられても新たに提案された事業6項目がある。町政の継続性の面からも次の町長へ引き継がれると思うんですが、その辺のところはどのようになさるのか。私は新たな事業の課題を克服して実現するためには、首長としての強いリーダーシップまたトッ

ブセールスが非常に大事になってくると思うんです。先ほどの三つありましたけど、例をとりますと例えば1つ目の新たな町の顔となる中心市街地の形成については各方面の誘致活動、それから二つ目の地域新電力の設立とスマートタウン構想の推進においては事業者と折衝交渉活動。また、五つ目の道路網整備と地域交通対策の推進においては、これは国・県への要望活動が必要じゃないかと思うんです。これらを含めて答弁願います。

町長 1 項目めの中心市街地の件については、区画整理も順調に、今、事業が展開しているというような私は認識を持っておりまして、議長始め関係役員の皆さん、そしてまた近隣関係いろいろ地主さんの皆さんも理解の上で、そういうことで、33年の春には大方の予想どおりに事業が進むんじゃないかなと、そんな認識を持っているところでございます。そんな中行われます都市計画道路においても、いわゆる事業認可がおりたというようなことで、具体的話になってきております。そういう点では進むんじゃないかなと。

2 項目めの新地域電力の設立とスマートタウンの構築でございますが、これはぜひ大井町にふさわしい事業じゃないかなと。大井町のメガソーラーを含め、太陽光発電の発電量が個人のお宅で使われる電力の87%強に当たっておりますので、それらを有効利用していきますと地域電力の運営というものはすごい効果の上がる事業になってくるんじゃないかなと。ですから、こういう事業を展開していただきたいと思います。

しかしながら、私もこれには情熱を傾けたいと思いますので、私の任期中に、今後4年かければその中でできようかと思いますが、私ももうこれに情熱を傾けていくだけの気力が薄らいでいるといえますか、やらないといけないとは思っていますが、それには結構の労力が必要じゃないかなと、この辺のところが課題と思っておりますが、ぜひこれは後進の皆さん方にやっていただきたいと思います。ぜひ議会の皆さん方の御理解をお願いしたいし、職員もこれについては町職員一丸となって鋭意努力していただきたいなと考えておるところでございます。

その次の道路網の整備と地域交通対策の推進でございますが、これについては国の関係機関も、私が先日もちよっと行ってまいりまして、国交省のほうへも新町長が決まったときにはまた御挨拶に来ますが、というようなことを私の口から次官のほうにお伝えさせていただいたし、それぞれの機関の室長さんにも言っております。また、新年度になれば県の異動等も終わればまたそれなりのところへ私も一緒に出向いてでも、

そのような対応はしていただきたいと思います。何しろ道路網の整備においては県の力をかりるのであれば大井町だけでなく、近隣市町の御理解いただかなければならないというようなことは、次の後進の方がやはり近隣の市町といろんな広域的な行政関係の中で力を発揮されることを期待するところでございます。

1 2 番 最後に聞こうと思ったことで時間も押してますので、それを先に聞きます。

町長としての町政運営の理念、これ何回もおっしゃってます公正無私で5期20年を運営されてこられた。この20年を振り返って町政運営を短い言葉で表現するとどのように振り返っておられるか。先に私から見て言いましょう。間宮町長の20年は、私は身の丈に合った町政運営ではなかったのかなと思います。私は冒頭で述べたように、これから政策、立案、実施には人口減少が急ピッチで進むことを前提にしなければならないと申し上げました。このことは将来に向けて不利になるべきものは残さない、これが大事ではないかと思います。そういう意味では、例えば町債残高の推移を見てみますと、町長が平成10年に町長になられた時に、27億4,500万の町債がありました。これから審査するんですけど、29年度21億5,600万、約6億円近く減っているわけです。先ほども申し上げましたように実質公債費率、これは10年前19年に7.6だったものが29年は0.5、これは全国的にトップクラスの値じゃないかなというふうに思う。このような一つの例ですので、町長はどのように短い言葉で表現して20年を振り返られますか。

町 長 20年を振り返るというよりも、私の前任者の瀬戸町長さんの時代に、将来を見越した健全な財政運営をしていただいた。当時は大手生命保険子会社から年間12億くらいの税金収入がある地なんです。しかしながら、それをマキシマムと考えずに、いわゆる4億か5億ぐらい来ることをベースにこれだけの庁舎から何からつくって、私につなげて財政運営に支障を来すようなことがなかったんじゃないかな。近隣を見ましてもバブルのときに市民税・法人一人当たり日本一であったというようなところも、当時、過剰投資を将来に向けてやったということが財政上大きく今苦しんでおられる。そんな状況を見ますと、そういうことは前任者の瀬戸さんに大変感謝してるところでございます。それと同時に先ほど清水議員おっしゃったように身の丈に合った町政運営をしたと。町民の皆さん方に変窮屈な思いをさせた。しかしながらやはり財政を鑑みながらやらなければヘルシータウンの実現はできませんもので、そういうふうなことさせていただいたわけでございます。何はともあれ町は総合計

画という計画をもってそれにのっとってやはり仕事をしてきたというようなことは今日迎えても健全化指数にも出ているんじゃないかと。思いつき、他の物まねを急にやってもいいわけないわけでございます。やはり事業展開をするのであれば、総合計画の位置づけた中でどの仕事を実施計画の中に織り込んでいくか、そういうふうなことを財政的な展望とあわせてやってきたことがよかったんじゃないかなろうか。これは私も政治家でありまして暴走するタイプであります、有能な職員の皆さん、また当時は助役、収入役また教育長、そういう方々にある面ではブレーキをかけられたといいますか、手綱を引かれた中で進めていき、いろんな行政のいろんな課題解決の手法をお教えいただいた中で来たということが、大きな誤りもなく今日を迎えることができたんじゃないかなとうように考えております。何はともあれ計画的に身の丈に合ったことをしていくことが今後の町政を担う人にも願うところでございます。

1 2 番 12月21日任期満了をもって町長を退かれることに対して20年間の御苦
 労に敬意と感謝を申し上げ、これからも町民の一人として町政に対し御
 指導、御支援くださるようお願い申し上げまして私の一般質問を終わ
 ります。

町 長 どうもありがとうございました。

議 長 以上で12番議員清水豊司君の一般質問を終わります。